

## II 農場運営

### 1 総務事項

#### 1) 人事異動

2018. 4. 1 異動  
大園 利則：農場事務係再雇用職員（前学長戦略室再雇用職員）  
有働 穰嗣：学内農場農事部技術職員（前農場事務係係員）
2018. 4. 30 辞職  
大園 利則：農場事務係再雇用職員
2018. 6. 30 退職  
園田真由美：農場事務係事務補佐員
2018. 7. 1 異動  
鎌田 耕一：農場事務係再雇用職員（前病院医務課収入係再雇用職員）  
昇任  
中野 八泊：学内農場農事部技術専門職員（前学内農場農事部技術職員）  
田浦 一成：指宿植物試験場技術専門職員（前指宿植物試験場技術職員）
2018. 10. 31 退職  
関 綾子：入来牧場技能補佐員
2018. 12. 31 退職  
津留見芳史：学内農場農事部技能補佐員
2019. 1. 1 採用  
園田真由美：農場事務係事務補佐員
2019. 3. 31 退職  
宇都山清孝：専門員兼農場事務係長  
片平 清美：入来牧場技術専門職員

#### 2) 技術職員研修

##### (1) ビワについての研究紹介およびビワ栽培管理方法等の視察

時 期：平成30年7月19日  
場 所：佐賀大学アグリ創生教育研究センター，アグリ資源開発学研究室  
研修者：唐湊果樹園 廣瀬技術専門職員，西澤技術職員

##### (2) ビワ栽培管理，収穫，選定方法等の視察および有用品種の紹介

時 期：平成30年7月20日  
場 所：長崎県農林技術開発センタービワ・落葉果樹研究室  
研修者：唐湊果樹園 廣瀬技術専門職員，西澤技術職員

#### 3) 農場施設の利用

農場では、学外・内を問わず広く施設の利用を受け入れている。

##### (1) 学外

###### (学内農場農事部)

- ・鹿児島大学教育学部附属小学校  
時期：平成30年4月11日～20日 140名  
内容：田んぼや畑にいる生き物とふれ合う活動を通して、季節の特徴的な事物や現象に気付き、季節感を養う
- ・鹿児島市立荒田小学校  
時期：平成30年4月25日 72名  
内容：小学校2年生の「春をさがそう」で、春の草花や昆虫などの観察をする
- ・認定こども園めぐみ幼稚園  
時期：平成30年5月8日 72名  
内容：幼児の体験活動のため、イモの苗の植え方を知り土の感触を味わう。また、自然の中でのびのびと遊ぶ

## Ⅱ 農場運営

- ・鹿児島市立甲南中学校  
時期：平成30年5月8日～10日 5名  
内容：職場体験学習
- ・鹿児島大学教育学部附属小学校  
時期：平成30年5月21日～31日 140名  
内容：田んぼや畑にいる生き物と触れ合う活動を通して、季節の特徴的な事物や現象に気づき、季節感を養う
- ・湛水サトイモプロジェクト  
時期：平成30年6月4日 20名  
内容：「農林水産省革新的技術開発・緊急展開事業」プロジェクトによるサトイモ製品化に向けての試食検討会開催
- ・鹿児島市立荒田小学校  
時期：平成30年6月22日 70名  
内容：小学3年生の理科の学習で、身の回りの昆虫や草花などに実際に触れながら観察する
- ・鹿児島大学教育学部附属小学校  
時期：平成30年6月18日～7月13日 140名  
内容：田んぼや畑にいる生き物と触れ合う活動を通して、季節の特徴的な事物や現象に気づき、季節感を養う
- ・鹿児島市立八幡小学校  
時期：平成30年6月29日 141名  
内容：総合的な学習の時間に田植え体験や観察を通して、農作物に関心を持ち、今後の調べ学習のテーマ設定に役立てる
- ・鹿児島市立荒田小学校  
時期：平成30年6月28日 72名  
内容：小学校理科（3年）で、身の回りの昆虫を見つけ、体のつくりや育ち方、すみかや食べ物を調べるための昆虫採集
- ・鹿児島市立荒田小学校  
時期：平成30年7月6日 66名  
内容：小学1年生活科で、「くさばなやむしをさがそう」という、夏の草花や昆虫に実際に触れながら観察をする
- ・鹿児島大学教育学部附属小学校  
時期：平成30年8月28日～9月3日 140名  
内容：2年生生活科「さんぼ」。田んぼや畑にいる生き物と触れ合う活動を通して、季節の特徴的な事物や現象に気づき、季節感を養う。
- ・鹿児島市立八幡小学校  
時期：平成30年9月27日 142名  
内容：総合的な学習の時間に田植えをした稲の生長の様子を観察する
- ・鹿児島市立中郡小学校  
時期：平成30年10月13日 78名  
内容：小学校1年生の生活科「あきをさがそう」の単元で、季節の変化を感じるため、秋の草花や虫を観察する
- ・認定こども園めぐみ幼稚園  
時期：平成30年10月17日 78名  
内容：幼児の体験活動のため、秋の実りを知りいもほりを体験する。土の感触を味わい、秋の自然の中でのびのびと遊ぶ
- ・鹿児島大学教育学部附属中学校  
時期：平成30年10月30日～31日 4名  
内容：職場体験学習
- ・鹿児島市立八幡小学校  
時期：平成30年11月7日 142名  
内容：総合的な学習の時間に田植えした稲の生長の様子を観察するとともに、稲刈り体験を行う

- ・鹿児島県茶業組合  
時期：平成30年11月15日  
内容：お茶の食味検査
  - ・鹿児島市立八幡小学校  
時期：平成30年11月22日 142名  
内容：総合的な学習の時間に刈り取った稲の脱穀、粃摺り、精米の過程を見学するとともに、体験を行うため
  - ・かごしまNHK  
時期：平成30年11月26日 1名  
内容：薩摩黒鴨の取材
  - ・鹿児島大学教育学部附属小学校  
時期：平成31年1月9日～31日 140名  
内容：田んぼや畑にいる生き物と触れ合う活動を通して、季節の特徴的な事物や現象に気づき、季節感を養う
  - ・山形大学農学部  
時期：平成31年1月29日 2名  
内容：在来作物を主とした有用植物遺伝資源の調査、鹿児島県在来ダイコンの視察
  - ・伝統野菜保存会  
時期：平成31年2月2日 22名  
内容：学内農場で伝統野菜の栽培について意見交換
  - ・鹿児島大学教育学部附属小学校  
時期：平成31年3月1日～22日 140名  
内容：田んぼや畑にいる生き物と触れ合う活動を通して、季節の特徴的な事物や現象に気づき、季節感を養う
- (動物飼育棟 (学内畜産部))
- ・ミャンマー農業研修生  
時期：10月17日, 18日 4名  
内容：家畜や堆肥施設の見学
  - ・岡山商科大学  
時期：平成31年2月22日 1名  
内容：アイガモやヤギの見学
- (唐湊果樹園)
- ・三重県農業研究所地域連携研究科 研究員  
時期：平成30年9月23日 2名  
内容：唐湊果樹園の視察
  - ・鹿児島大学教育学部附属中学校  
時期：平成30年10月30日～31日 4名  
内容：職場体験学習
  - ・JAにじ管内農業振興協議会  
時期：平成30年11月6日 7名  
内容：アーモンドのとりくみについて研修
  - ・認定こども園 紫原幼稚園  
時期：平成30年12月13日 68名  
内容：園外保育での果樹園の見学
  - ・ニチレイフーズ  
時期：平成31年3月26日 5名  
内容：共同研究に関する打ち合わせおよびアセロラ栽培状況調査
- (指宿植物試験場)
- ・指宿熱帯果樹研究会  
時期：平成30年4月17日 10名  
内容：地域貢献の一環として、農家などにアドバイスを行っている指宿熱帯果樹研究会による試験場内視察と意見交換

## Ⅱ 農場運営

- ・指宿熱帯果実振興会  
時期：平成30年6月16日 10名  
内容：地域貢献の一環として、農家などにアドバイスをを行っている指宿熱帯果実振興会による試験場内視察と意見交換
  - ・鹿児島県立農業大学校農学部果樹科  
時期：平成30年7月24日 10名  
内容：視察研修を行うことにより、アボカドやスターフルーツなど、多様な熱帯・亜熱帯果樹の品種特性、栽培管理技術、大学での研究先進技術について習得する。さらに、指宿地域における果樹の生育状況について習得する。
  - ・指宿熱帯果樹研究会  
時期：平成30年11月15日 10名  
内容：地域貢献の一環として協力している指宿熱帯果樹研究会による試験場内視察と現地検討会
  - ・山口大学  
時期：平成30年11月25日～26日 8名  
内容：薩長同盟酒プロジェクト。サツマイモ収穫後、酒米「山田錦」ならびに焼酎原料用サツマイモ「コガネセンガン」の栽培と加工に関する合同セミナー
  - ・雲南農業大学  
時期：平成30年12月7日 15名  
内容：中国の雲南農業大学学生の研修
  - ・指宿熱帯果実振興会  
時期：平成31年3月9日 10名  
内容：地域貢献の一環として参画している指宿熱帯果実振興会の施設見学および情報の交換会
  - ・指宿熱帯果樹研究会  
時期：平成30年3月19日 12名  
内容：地域貢献の一環として参画している指宿熱帯果樹研究会の打ち合わせおよび情報の交換会
  - ・ニチレイフーズ  
時期：平成31年3月27日 5名  
内容：ニチレイフーズとの共同研究に関する打ち合わせおよびアセロラ栽培状況調査
- (入来牧場)
- ・農研機構九州沖縄農業研究センター  
時期：平成30年4月26日 2名  
内容：環境省予算のプロジェクト研究で、森林から農地に土地利用変化があった農地の土壌中炭素量を調査中である。衛星画像から入来牧場内に候補地らしき場所があったため、城内の農地についての聞き取りや候補地の下見を行う
  - ・鹿児島市立吉田北中学校  
時期：平成30年5月15日～17日 1名  
内容：職場体験学習
  - ・農研機構九州沖縄農業研究センター  
時期：平成30年5月24日 6名  
内容：土壌炭素量の比較調査
  - ・一般市民  
時期：平成30年6月26日 5名  
内容：口之島牛の見学
  - ・斯文堂株式会社  
時期：平成30年6月13日 2名  
内容：ドローン撮影のため
  - ・出水中央高校  
時期：平成30年7月24日 9名  
内容：進学指導の一環として、訪問をとおして教育・研究内容についての理解を深め、今後の進路選択に向けての情報収集

・鹿児島県森林組合連合会

時期：平成30年1月19日 2名

内容：牧場隣接地の薩摩川内市有林（森林整備公社分収林）での植栽工事着工前のUAV写真撮影および、同市有林（分収林以外）での災害地の森林保険業務に係るUAV測量のための撮影

・山梨県立韮崎高校

時期：平成30年1月31日 40名

内容：入来牧場内に設置されている鹿児島大学1m光赤外線望遠鏡施設見学

(2) 学内

(学内農場)

平成30年度

4月19日 農業土木学実験において畑地における水の浸透試験の実施(15名)

7月1日～11月30日 蒸発散量観測で使用する温湿度センサー、放射量センサー、地中熱流量センサーの各センサー特性を、畑地で実際に場発散量を観測しながら調べる(3名)

7月5日 応用植物科学3年生選択授業「地域実習」のオリエンテーション(12名)

10月1日～2019年4月30日

蒸発散量観測で使用する温湿度センサー、放射量センサー、地中熱流量センサーの各センサー特性を、畑地で実際に蒸発散量を観測しながら調べる(3名)

(動物飼育棟(学内畜産部))

該当無し

(唐湊果樹園)

5月25日 樹木の同定実習(20名)

5月28日 樹木学実習の実施及びその準備作業として樹木の観察及び腊葉標本にするための枝葉の採取を実施(4名)

6月1日 樹木の同定実習(20名)

6月8日 樹木の同定実習(20名)

1月8日～2月15日 柑橘類へのヒヨドリの飛来状況と音声に対する行動反応(1名)

(指宿植物試験場)

4月28日 遺伝資源保存用のヤムイモ・ウコンの定植(13名)

5月22日 遺伝資源保存用のヤムイモの支柱立てと除草作業(9名)

6月9日 ケナフ栽培の準備および定植(1名)

6月12日 ヤムイモおよびウコン圃場の除草作業(9名)

7月14日～15日 「国際協力体験講座-ミャンマーコース」のメンバーが渡航する前の事前研修の一貫として、当試験場に植栽されている熱帯果樹類の種類や生育状況を把握する。また、渡航メンバーの親睦及び団結をはかる(10名)

7月17日 ヤムイモおよびウコン圃場の除草作業(9名)

8月30日 ケナフの栽培管理(3名)

11月24日～25日 保存用ヤムイモおよびウコン収穫・調査(17名)

12月21日 ケナフ収穫(2名)

1月25日 熱帯・亜熱帯植物葉等のサンプリングのため(2名)

2月8日 野生動物の生息状況調査(2名)

3月28日 遺伝資源保存用のヤムイモ消毒と圃場準備(13名)

(入来牧場)

4月1日～30日 卒論研究(牛に関する調査)のための飼養管理(1名)

4月3日 飼育棟牛えさおろし(1名)

4月10日 修論研究(シカ害に関する調査)のためのライトセンサス(3名)

草地カメラチェック(1名)

理学部物理科学科新入生オリエンテーションの一環として、1年生学生および引率教員が、入来牧場内に設置されている鹿児島大学1m光赤外線望遠鏡施設の見学を行う(46名)

4月17日 ヤギ草地チェック・舎飼地整備(2名)

草地カメラチェック(1名)

4月24日 草地カメラチェック(1名)

## Ⅱ 農場運営

4月25日	ヤギ草地整備（8名） ヤギ放牧地に関する調査（1名）
5月1日～25日	卒論研究（牛に関する調査）のための飼養管理（1名）
5月1日	草地カメラチェック（1名） 修論研究（シカ害に関する調査）のためのライトセンサス（1名） 分娩監視試験（3名）
5月2日～6日	分娩監視試験（2名）
5月8日	ヤギ飼養管理（1名） 草地カメラチェック（1名）
5月9日	ブタ放牧地の整備（4名）
5月12日～16日	分娩監視試験（2名）
5月15日	ヤギ飼養管理（1名） 草地カメラチェック（1名）
5月22日	ヤギ飼養管理（1名） 草地カメラチェック（1名）
5月23日	草地カメラチェック（1名）
5月26日～27日	分娩監視試験（2名）
5月29日	ヤギ飼養管理（1名）
5月30日	草地カメラチェック（1名） 草地管理手伝い（2名）
6月1日～29日	卒論研究（牛に関する調査）のための飼養管理（1名）
6月1日～3日	分娩監視試験（2名）
6月3日	ヤギ飼養管理（1名）
6月4日～5日	修論研究（シカ害に関する調査）のためのライトセンサス（1名）
6月5日	ヤギ飼養管理（2名） ダニに対する抗体を研究予定であるため、その予備調査として入来牧場の雌牛の血清中の各抗体などを調査する（1名）
6月6日	修論研究（シカ害に関する調査）のためのライトセンサス（1名） 草地管理手伝い（2名）
6月9日,10日,11日	分娩監視試験（1名）
6月11日	農機講習会（30名）、ヤギ放牧地整備、ブタ放牧地整備（1名）
6月12日	分娩監視試験（2名）、ヤギ放牧地整備、ブタ放牧地整備（1名） 草地9区電気柵ポール設置（6名）、ヤギ飼養管理（2名）
6月13日	ヤギ放牧地下草管理（2名） 修論研究（シカ害に関する調査）のためのライトセンサス及びブタ放牧地整備（1名）
6月16日～19日	分娩監視試験（2名）
6月19日	ヤギ飼養管理（2名）、草地カメラチェック（1名）
6月26日	ヤギ飼養管理（2名）、草地カメラチェック（1名）
7月2日～31日	卒論研究（牛に関する調査）のための飼養管理（1名）
7月1日～2日	分娩監視試験（2名）
7月3日～6日	分娩監視試験（1名）
7月4日	ヤギ飼養管理（2名）、草地カメラチェック（1名） 修論研究（シカ害に関する調査）のためのライトセンサスおよびブタ放牧地整備、電気柵設置（1名）
7月6日	分娩監視試験（2名）
7月7日～8日	分娩監視試験（1名）
7月10日	ヤギ飼養管理（1名）
7月11日	草地カメラチェック（1名）
7月17日	ヤギ飼養管理（1名）、草地カメラチェック（1名）
7月18日	ヤギ舎飼地整備（3名）、草地管理手伝い（2名）
7月20日,21日	ヤギ飼養管理（1名）
7月24日	ヤギ飼養管理（1名）、草地カメラチェック（1名）、分娩監視試験（1名）

7月25日, 26日	分娩監視試験 (2名)
7月27日	分娩監視試験 (1名)
7月28日~29日	分娩監視試験 (2名)
7月30日, 31日	分娩監視試験 (1名)
7月31日	ヤギ飼養管理 (1名), 草地カメラチェック (1名)
8月1日~31日	卒論研究 (牛に関する調査) のための飼養管理 (1名)
8月1日	草地カメラチェック (1名)
8月7日	草地カメラチェック (1名)
8月7日~8日	修論研究 (シカ害に関する調査) のためのライトセンサス (1名)
8月10日	草量調査 (5名)
8月14日	ヤギ飼養管理 (1名)
8月16日	草地カメラチェック (2名)
8月21日	ヤギ飼養管理 (1名)
8月28日	ヤギ飼養管理 (1名)
9月1日~30日	卒論研究 (牛に関する調査) のための飼養管理 (1名)
9月2日	分娩監視試験 (2名)
9月4日	ヤギ飼養管理 (1名), 草地カメラチェック (1名), 分娩監視試験 (1名) 修論研究 (シカ害に関する調査) のためのライトセンサスおよび9区ブタ放牧地草刈り (4名)
9月5日	分娩監視試験 (2名)
9月9日~11日	分娩監視試験 (2名)
9月11日	ヤギ飼養管理 (1名), 草地カメラチェック (1名) シカ害防除試験地およびヤギ放牧地などの整備 (1名)
9月12日~13日	入来牧場フェアに向けた宿泊体験 (7名)
9月18日	ヤギ飼養管理 (1名), 草地カメラチェック (1名)
9月25日	ヤギ飼養管理 (1名), 草地カメラチェック (1名)
9月26日	発酵TMRの調整に関する研究 (3名)
10月1日~31日	卒論研究 (牛に関する調査) のための飼養管理 (1名)
10月2日	ヤギ飼養管理 (1名), 草地カメラチェック (1名) 修論研究 (シカ害に関する調査) のためのライトセンサス (3名)
10月9日	ヤギ飼養管理 (1名), 草地カメラチェック (1名) 修論研究 (シカ害に関する調査) のためのライトセンサス (3名)
10月10日	草地カメラチェック (1名)
10月11日	「鹿兒島ハイブリッドロケット研究会」にてロケットの回収のため, パラシュートにてロケット ト本体を軟着させるための実験 (15名) トカラ馬の見学 (1名)
10月16日	ヤギ飼養管理 (1名), 草地カメラチェック (1名)
10月19日, 20日	分娩監視試験 (1名)
10月21日, 22日	分娩監視試験 (1名)
10月23日	ヤギ飼養管理 (1名), 草地カメラチェック (1名)
10月30日	ヤギ飼養管理 (1名), 草地カメラチェック (1名)
10月31日	分娩監視試験 (1名)
11月1日~30日	卒論研究 (牛に関する調査) のための飼養管理 (1名)
11月6日	修論研究 (シカ害に関する調査) のためのライトセンサス (3名) 草地カメラチェック (1名)
11月13日	修論研究 (シカ害に関する調査) のためのライトセンサス (3名) 草地カメラチェック (1名)
11月17日~18日	分娩監視試験 (2名)
11月19日	分娩監視試験 (2名)
11月20日~21日	分娩監視試験 (3名)
11月27日	草地カメラチェック (1名) 「鹿兒島ハイブリッドロケット研究会」にてロケットの回収のため, パラシュートにてロケット ト本体を軟着させるための実験 (15名)

## Ⅱ 農場運営

12月1日～31日	卒論研究（牛に関する調査）のための飼養管理（1名）
12月4日	草地カメラチェック（2名） 理学部物理科学科3年の授業「天体観測実習」の一環として、受講登録学生および引率教員とで、鹿児島大学1m光赤外線望遠鏡施設の見学を行う（30名） ベトナム人研究生による牧場見学（2名）
12月11日	草地カメラチェック（2名）
12月18日	修論研究（シカ害に関する調査）のためのライトセンサス（4名）
12月19日	牛による発酵TMRの嗜好性に関する研究（3名）
12月25日	修論研究（シカ害に関する調査）のためのライトセンサス（4名） 草地カメラチェック（1名）
12月31日	草地カメラチェック（1名）
1月1日～31日	卒論研究（牛に関する調査）のための飼養管理（1名）
1月8日	草地カメラチェック（1名） 修論研究（シカ害に関する調査）のためのライトセンサス（4名）
1月15日	草地カメラチェック（1名）
1月22日	草地カメラチェック（1名）
1月29日	草地カメラチェック（1名）
2月1日～28日	卒論研究（牛に関する調査）のための飼養管理（1名）
2月2日	分娩監視試験（3名）
2月7日	草地カメラチェック（1名） 修論研究（シカ害に関する調査）のためのライトセンサス（4名）
2月13日	草地カメラチェック（1名）
2月19日	草地カメラチェック（1名）
2月26日	草地カメラチェック（1名）
3月1日～31日	卒論研究（牛に関する調査）のための飼養管理（1名）
3月5日	草地カメラチェック（1名） 修論研究（シカ害に関する調査）のためのライトセンサス（4名）
3月6日	竹粉サイレージ調製に関する調査（2名）
3月7日	竹粉サイレージ調製に関する調査（4名）
3月11日	草地カメラチェック（1名）
3月19日	草地カメラチェック（1名）
3月26日	草地カメラチェック（1名）

#### 4) 刊行物

鹿児島大学農学部農場年報，第13号（2019.3）（2015年度から印刷物を廃止し，Webでの配信のみとした）  
鹿児島大学農学部農場研究報告，第40号（2019.3）

#### 5) 行事

4月7日	展示即売会
5月25日	入来牧場牧神祭
7月13日	学内農場農事部お田植え祭
11月22日	唐湊果樹園収穫祭

#### 6) 平成30年度全国大学附属農場協議会

##### (1) 春季協議会

日 時：平成30年5月10日～11日  
場 所：学士会館（東京都）  
参加者：津田農場長

##### (2) 秋季協議会

日 時：平成30年9月13日～14日  
場 所：明治大学駿河台キャンパス リバティタワー1階（東京都）  
参加者：津田農場長，松元技術専門職員

## (3) 九州地域協議会及び技術職員教育・研究発表会

日 時：平成30年 8月28日～29日

場 所：鹿兒島大学農・獣医学共通棟101講義室（鹿兒島市）

参加者：津田農場長，遠城主事他20名

## 2 会計事項

## 1) 予算および決算

平成30年度の農場予算および決算は，第6表のとおりである。予算額99,223,000円に対し，決算額99,806,000円で，583,000円の不足額が生じ，翌年度に繰り越した。

第6表 平成30年度予算および決算

(単位：円)

施設名	当初配分額	追加配分額 および振替額	予算額	決算額	差引過不足額
農場実習経費	0	0	0	0	0
農場実習支援経費	43,077,000	△1,865,000	41,212,000	40,543,000	669,000
農場運営経費	45,150,000	12,861,000	58,011,000	59,263,000	△1,252,000
主事	0	0	0	0	0
植物部門主任	0	0	0	0	0
動物部門主任	0	0	0	0	0
合 計	88,227,000	10,996,000	99,223,000	99,806,000	△583,000

## 2) 機械，設備および備品

今年度は，機械，備品への予算の充当はなかった。

第7表 平成30年度機械設備等の整備（50万円以上 予算：自己収入）

機械設備名	メーカー・規格	数量	金額（円）	施設名
該当無し				
合 計				

## 3) 施設整備

## (1) 学内農場農事部

数年前より，作物生産に配慮した輪作体系を組み，田畑輪換も含めた作付け体系を実施している。しかし，元来が排水不良地であるため，畑作時における，湿害の発生がみられた。そこで，平成19年度の実習教育改善経費により，排水不良の2圃場（10号：約800㎡，と11号：約1,570㎡）に暗渠排水を敷設した。

## (2) 唐湊果樹園

果樹園は敷地境界にフェンスを設置しているが，老朽化している箇所がみられることから，更新が必要である。また，敷地境界では，ゴミの投げ込みもみられることから対策もあわせて必要となる。

## (3) 指宿植物試験場

ここ数年，施設の加温に利用している温泉量が減少傾向にあるため，一部の温室やハウスでは，従来の温度確保がむずかしくなってきた。一時的な現象かどうかを見極める必要があるが，平成20年度に導入された「省エネルギー型生産技術開発システム」に利用する温泉量も減少しており，今後，湯量の確保に向けた方策が必要になる。更に，倉庫や堆肥置き場などの老朽化や大雨時の浸水などへの対策，管理棟のトイレや風呂の改修が望まれる。

## (4) 入来牧場

・トカラ馬 (*Equus caballus*)

日本に現存する8種類の在来馬の一つで，1953年9月に鹿兒島県の文化財として天然記念物に指定されている。鹿兒島大学附属農場入来牧場では，平成30年度現在，推計48頭のトカラ馬を保有している。トカラ馬は完全な野生化状態で導入されており，頭数維持は自然交配自然分娩によって行われている。平成27年3月に加えて，平成28年11月に馬伝染性貧血検査のため全頭採血を実施し，全頭頸部下に個体識別チップを埋め込んでいる。

・口之島野生化牛 (*Bos Taurus*)

日本に現存する2種類の在来牛の一つで，鹿兒島県十島村に生息している。口之島野生化牛は絶滅の危機に瀕しているため，鹿兒島大学において保護と増殖のための取り組みを行っている。近年の十島村における正確な生息頭数は

不明であるが、鹿児島大学農学部附属農場では、9頭を保有し、保護している。平成28年度以降は、純粋口之島野生化牛の流死産が発生したため、産子を得ることができなかったが、平成30年11月および12月の受精卵移植により、純粋口之島野生化牛の産子が計2頭、受胎していることが確認されている。慎重に飼養管理を行い、新たな産子の確保に努めていきたい。

### 3 各種会議および委員会

農学部は平成28年度（2016年度）に改組を行い新体制がスタートした。改組は学年進行であるが新組織に適應させるよう本農場の各種会議および委員会の構成員も変更を行った。

#### 1) 農場会議

##### (1) 委員名簿（任期2年 2018年4月1日～2020年3月31日）

農場長（議長）	津田 勝男
農場主事	遠城 道雄
植物部門主任	朴 炳宰
動物部門主任	大島 一郎
応用植物科学コース	志水 勝好
応用植物科学コース	山本 雅史
応用植物科学コース	坂巻 祥孝
畜産科学コース	中西 良孝
食料農業経済学コース	豊 智行
食料生命科学科	高峯 和則
農林環境科学科	芝山 道郎
総務課長	鮎川 秋徳

##### (2) 会議記録

第1回：平成30年9月11日（火）10時00分～10時40分

- 議題 1. 平成29年度附属農場決算（案）について  
 2. 平成30年度附属農場予算（案）について  
 3. 平成30年度後期農場実習（案）について  
 4. 平成30年度後期施設等利用計画（案）について  
 5. その他

報告事項

1. 平成30年度全国大学附属農場協議会九州地域協議会及び技術職員教育・研究発表会（鹿児島大学当番）について  
 2. 平成30年度全国大学附属農場協議会秋季全国協議会について  
 3. 平成30年度第1回農場運営委員会の報告について  
 4. その他

第2回：平成31年1月18日（金）8時58分～9時16分

- 議題 1. 農学部附属農場長候補適任者の選考について  
 2. その他

報告事項

1. その他

第3回：平成31年3月19日（火）10時30分～11時00分

- 議題 1. 2019年度前期農場実習（案）について  
 2. 2019年度前期施設等利用計画（案）について  
 3. 農場長候補適任者選考に関する申し合わせ（案）について  
 4. その他

報告事項

1. 2019年度生産物展示即売会の開催について  
 2. 農場会議委員の交替について  
 3. その他

## 2) 農場運営委員会

### (1) 委員名簿 (任期2年 2018年4月1日～2020年3月31日)

農場長 (委員長)	津田 勝男
農場主事	遠城 道雄
植物部門主任	朴 炳宰
動物部門主任	大島 一郎
兼任教員	下田代智英
兼任教員	清水 圭一
兼任教員	高山 耕二
農事部技術総括	野村 哲也
唐湊果樹園技術総括	福留 弘康
指宿植物試験場技術総括	谷村 音樹
入来牧場技術総括	片平 清美
総務課長代理	浜元 義典
農場事務係長	宇都山清孝

### (2) 委員会記録

第1回：平成30年7月27日 (金) 13時10分～14時45分

- 議題 1. 平成29年度附属農場決算 (案) について  
 2. 平成30年度附属農場予算 (案) について  
 3. その他

報告事項

1. 平成30年度全国大学附属農場協議会九州地域協議会について  
 2. 平成30年度全国大学附属農場協議会秋季全国協議会について  
 3. 各施設報告  
 4. その他

## 3) 農場実習教育委員会

### (1) 委員名簿 (任期なし)

農場長 (委員長)	津田 勝男
農場主事	遠城 道雄
植物部門主任	朴 炳宰
動物部門主任	大島 一郎
農業生産科学科 応用植物科学コース	下田代智英
〃	坂上 潤一
〃	角 明夫
〃	一谷 勝之
〃	志水 勝好
〃	山本 雅史
〃	香西 直子
〃	吉田理一郎
〃	橋本 文雄
〃	清水 圭一
〃	坂巻 祥孝
畜産科学コース	大久津昌治
〃	三好 和睦
〃	岡本 新
〃	下桐 猛
〃	中西 良孝
〃	高山 耕二
〃	後藤 貴文
〃	大塚 彰

## Ⅱ 農場運営

畜産科学コース	井尻 大地
食料生命科学科 食環境制御科学コース	岩井 久
〃	中村 正幸
農林環境科学科 地域環境システム学コース	岩崎 浩一
〃	末吉 武志
自然科学教育研究支援センター	
遺伝子実験施設	田浦 悟

### (2) 委員会記録

第1回：平成30年8月8日（水）14時30分～14時50分

- 議題 1. 平成30年度後期農場実習Ⅰ，農業生産学実習の実習プログラム（案）について  
2. 平成30年度後期集中実習日程（案）について  
3. その他

第2回：平成31年3月4日（月）10時30分～10時45分

- 議題 1. 2019年度前期農場実習Ⅱの実習プログラム（案）について  
2. 2019年度前期集中実習日程（案）について  
3. その他

### 4) 附属農場施設等利用委員会

(1) 委員名簿（任期2年 2018年4月1日～2020年3月31日）

農場主事（委員長）	遠城 道雄
植物部門主任	朴 炳宰
動物部門主任	大島 一郎
応用植物科学コース	下田代智英
応用植物科学コース	一谷 勝之
応用植物科学コース	清水 圭一
畜産科学コース	高山 耕二
食料生命科学科	樗木 直也
農林環境科学科	芝山 道郎

### (2) 委員会記録

第1回：平成30年7月31日（火）16時10分～16時25分

- 議題 1. 平成30年度後期施設等利用計画（案）について  
2. その他

第2回：平成31年3月4日（月）9時00分～9時20分

- 議題 1. 2019年度前期施設等利用計画（案）について  
報告事項  
1. その他

### 5) 農場研究報告編集委員会

(1) 委員名簿（任期2年 2018年4月1日～2020年3月31日）

応用植物科学コース（委員長）	山本 雅史
農場主事	遠城 道雄
応用植物科学コース	下田代智英
畜産科学コース	下桐 猛
食環境制御科学コース	赤木 功

### (2) 委員会記録

第1回：平成30年5月16日（水）17時00分～17時15分

- 議題 1. 農場研究報告編集委員会委員長の選出について  
2. 鹿児島大学農学部農場研究報告原稿の募集について  
3. その他

第2回：平成30年11月7日（水）8時30分～9時15分

- 議題 1. 農場研究報告第40号受付原稿の査読者の選定について  
2. その他

6) 農場家畜防疫対策検討委員会

(1) 委員名簿（任期2年 2018年4月1日～2020年3月31日）

農場長（委員長）	津田 勝男
農業生産科学科畜産科学コース	岡本 新
〃	中西 良孝
〃	井尻 大地
農場主事	遠城 道雄
植物部門主任	朴 炳宰
動物部門主任	大島 一郎
入来牧場技術総括	片平 清美
入来牧場管理獣医師	山口 浩

(2) 委員会記録

（委員会の開催なし）

4 入来牧場における牛白血病ウイルス（BLV）清浄化の進捗状況

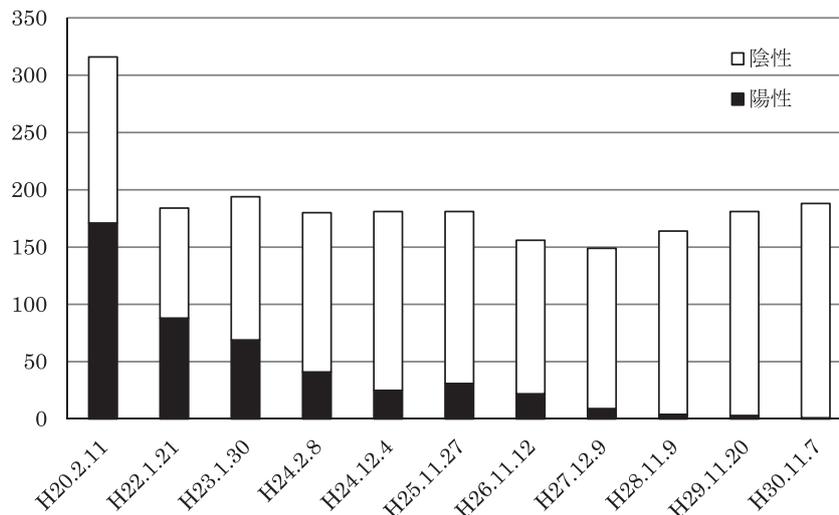


図1 牛白血病ウイルス保有率の推移

平成19年10月、入来牧場における飼養牛のBLV血清抗体価を調査した結果、検査頭数361頭のうち、陽性牛は210頭となり、全体の58%が牛白血病ウイルスに感染していることが判明した。この結果を受け、農場では平成20年1月以降、家畜防疫対策委員会を設置し、入来牧場の牛白血病ウイルス清浄化を、分娩管理および分離飼育の両側面から進めることを決定した。入来牧場では、直ちに清浄化対策を実施し、平成20年5月で陽性率51%、平成20年11月には陽性率は41%、平成23年1月には陽性率36%、平成24年2月には陽性率23%、平成24年12月には陽性率14%と着実に陽性率の低下を実現し、平成19年以降、陽性率は44ポイント低下している。平成25年11月の調査では陽性率17%、平成26年11月の調査では陽性率14%であったが、平成27年度からの調査では陽性率が10%を下回り、平成30年11月の調査では1%であった。現在、陽性率は横ばいで推移していることから、継続的な防疫体制維持により、牛白血病ウイルスを一定数でコントロールできていると考えられる。現在、BLV清浄化は最終段階に入っているものの、陽性牛を集めて出荷までの間飼養している肥育牛舎では、水平感染のリスクもあることから、BLVの完全な清浄化には、まだ期間を要するものと考えられる。今後は、陽性が確定された牛を直ちに出荷するとともに、引き続き陰性牛の陽転を観察するため、定期的な血液検査を行っていく予定である。